

令和 5 年 6 月 13 日現在

機関番号：15501

研究種目：基盤研究(C)（一般）

研究期間：2016～2022

課題番号：16K12095

研究課題名（和文）既婚男女の家族計画支援方法確立に向けた基礎的研究

研究課題名（英文）Basic Research towards Establishing Family Planning Support for Married Couples

研究代表者

亀崎 明子（Kamezaki, Akiko）

山口大学・大学院医学系研究科・准教授

研究者番号：80526913

交付決定額（研究期間全体）：（直接経費） 3,100,000円

研究成果の概要（和文）：研究1では、医療者が既婚者に実施している避妊指導の実態を明らかにすることを目的とした。病院・診療所など1,741施設を選定し調査を行った。その結果、既婚者に対する避妊に関する指導は短時間で実施されていること、望まない妊娠を機に避妊に関する指導を受けている既婚者が多いことが明らかになった。

研究2では、既婚男女の「避妊に関する知識」、「避妊に対する意識」、「避妊に対する困難性」が「避妊の実行」にどのように影響するのか男女別に確認し、示唆を得ることを目的とした。その結果、男女のパス係数に違いが認められたことから、避妊に関する指導を行う際は、性差を考慮して実施する必要がある。

研究成果の学術的意義や社会的意義

既婚女性の結婚後人工妊娠中絶の経験が報告されている。既婚女性の人工妊娠中絶を減少させることは喫緊の課題であり、医療者はリプロダクティブヘルス/ライツの観点から、既婚男女が家族計画を立て、確実に避妊ができるよう支援する必要がある。

本研究結果は、家族計画・避妊に関する指導のあり方を再考する基礎的資料になったと考える。また、「避妊に関する知識」、「避妊に対する意識」、「避妊に対する困難性」が「避妊の実行」にどのように影響するのかを男女別に確認できたことから、今後の家族計画・避妊指導方法の構築に寄与すると考える。

研究成果の概要（英文）：The purpose of Study 1 was to investigate the current state of contraceptive counseling provided by healthcare professionals to married individuals. A survey was conducted in 1,741 healthcare facilities, including hospitals and clinics. The results revealed that contraceptive counseling for married individuals is often brief in duration, and many married individuals receive counseling following unintended pregnancies. In Study 2, the aim was to examine how "knowledge about contraception," "attitudes towards contraception," and "difficulties related to contraception" affect "contraceptive behavior" separately for men and women. The findings indicated that the structural models differed between genders, highlighting the need to consider gender differences when providing contraceptive counseling.

研究分野：助産学

キーワード：避妊 家族計画 既婚男女

様式 C - 19、F - 19 - 1、Z - 19 (共通)

1. 研究開始当初の背景

既婚女性の 33.6% に結婚後人工妊娠中絶の経験があると報告されている。既婚女性の人工妊娠中絶を減少させることは喫緊の課題であるが、日本において既婚者に対する家族計画指導の実態を明らかにした先行研究はほとんど見あたらない。既婚女性の人工妊娠中絶を減少させることは喫緊の課題であり、医療者はリプロダクティブヘルス/ライツの観点から、既婚男女が家族計画を立て、確実に避妊ができるよう支援する必要がある。

2. 研究の目的

「研究 1: 日本における既婚者に対する家族計画指導の実態と今後の課題」では、医療者が既婚者に対して行っている家族計画指導の実態を明らかにすることを目的として調査を行った。

「研究 2: 既婚男女の避妊の実態と避妊の実行を規定する要因の検討」では、既婚男女の「避妊に関する知識」、「避妊に対する意識」、「避妊に対する困難性」が「避妊の実行」にどのように影響するのか男女別に確認し、示唆を得ることを目的として調査を行った。

3. 研究の方法

「研究 1: 日本における既婚者に対する家族計画指導の実態と今後の課題」は、層化無作為抽出法にて選定した病院・診療所 1000 施設および助産所 741 施設を対象に無記名自記式質問紙調査を行った。

「研究 2: 既婚男女の避妊の実態と避妊の実行を規定する要因の検討」では、株式会社マクロミルによるインターネット調査を行った。

研究 1・2 とも所属機関の倫理審査委員会の承認後に調査を開始した。

4. 研究成果

「研究 1: 日本における既婚者に対する家族計画指導の実態と今後の課題」の結果、415 施設から回答が得られ、412 施設を分析対象とした。回答者の職種は、助産師 342 名 (83.0%)、看護師 10 名 (2.4%)、保健師 1 名 (0.2%)、医師 59 名 (14.3%) であった。

分娩取り扱い施設は 249 施設 (60.4%) であった。分娩取り扱い施設 249 施設において、褥婦に家族計画について指導する時期は「入院中」231 施設 (92.8%)、「退院後外来通院中」5 施設 (2.0%) であり、多くの分娩施設で退院までに褥婦に家族計画指導を行っていた。「家族計画指導を行っていない」は 6 施設 (2.4%) であった。家族計画指導の対象は「褥婦全員」が 195 施設 (84.4%) と最も多かった。褥婦の夫に対する指導は「夫が参加できる場合は指導する」が 114 施設 (49.4%) と最も多く、次いで「指導していない」88 施設 (38.1%)、「必要と判断した場合のみ指導する」15 施設 (6.5%) などであり、夫に対する家族計画指導の実施率は低かった。1 回の指導時間は過半数が 10 分以下であり、短時間で家族計画指導を実施していることが明らかになった。

既婚者に対する家族計画指導を行っている施設は 186 施設 (45.1%) であった。指導は人工妊娠中絶施行前後に行われることが最も多く、1 回の指導時間は過半数が 10 分以下であった。

既婚者に対する家族計画指導は短時間で実施されていることが明らかになった。また、望まない妊娠を機に家族計画指導を受けている既婚者が多いと推察された。夫の協力がなければ家族計画の実施は困難であることから、褥婦だけでなく夫に対しても家族計画指導を行う必要がある。また、既婚者が望まない妊娠に至らぬよう家族計画指導の充実を図る必要性が示唆された。

「研究 2: 既婚男女の避妊の実態と避妊の実行を規定する要因の検討」の結果、3,335 名から回答が得られ、男性 1,665 人 (49.9%)、女性 1,670 人 (50.1%) であった。平均年齢は、男性 40.4 ± 6.9 歳、女性 35.7 ± 5.8 歳であり、男性で有意に年齢が高かった ($p < 0.001$)。結婚前に人工妊娠中絶の経験がある女性は 152 人 (9.1%)、回答拒否 64 人 (3.8%)、結婚後に人工妊娠中絶の経験がある女性は 77 人 (4.4%)、回答拒否 65 人 (3.9%) であった。

多母集団同時分析の結果、適合性の高い因果モデルが見出された ($\chi^2 / df = 1.622$ 、 $p = 0.198$ 、 $GFI = 1$ 、 $AGFI = 0.995$ 、 $CFI = 1$ 、 $RMSEA = 0.014$ 、 $AIC = 39.244$)。男性では「避妊に関する知識」、「避妊に対する意識」が「避妊の困難性」に有意に影響し、「避妊に対する意識」が「避妊の実行」に有意に影響していた。女性では「避妊に関する知識」、「避妊に対する意識」が「避妊の困難性」に有意に影響し、「避妊に対する意識」、「避妊の困難性」が「避妊の実行」に有意に影響を与えていた。また、「避妊に対する

る意識」から「避妊の困難性」へのパス係数に男女で有意な差が認められ、男性で有意に強く影響していた。

男女のパス係数に違いが認められたことから、避妊に関する指導を行う際は性差を考慮して実施する必要がある。

5. 主な発表論文等

〔雑誌論文〕 計0件

〔学会発表〕 計1件（うち招待講演 0件 / うち国際学会 1件）

1. 発表者名 Akiko Kamezaki, Eri Kawamoto, Misae Ito, Mayumi Tanaka
2. 発表標題 The reality of family planning toward the married people in Japan
3. 学会等名 Sigma 2019 CONGRESS (国際学会)
4. 発表年 2019年

〔図書〕 計0件

〔産業財産権〕

〔その他〕

-

6. 研究組織

	氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
研究分担者	河本 恵理 (Kawamoto Eri) (90718339)	山口大学・大学院医学系研究科・助教 (15501)	
研究分担者	矢田 浩紀 (Yada Hironori) (80644442)	山口大学・大学院医学系研究科・講師 (15501)	

7. 科研費を使用して開催した国際研究集会

〔国際研究集会〕 計0件

8. 本研究に関連して実施した国際共同研究の実施状況

共同研究相手国	相手方研究機関
---------	---------